

第1章 はじめに 1P

政府の「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月）文部科学省の「インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成27年3月）及び岡山大学の「インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成29年3月策定）（令和5年2月改定）を踏まえ、各施設のデータベース化を図ることにより社会の変化に対応できるシステムを構築し、現在想定し得る限りの条件を反映させることで将来の大学の姿を常に予測しながら着実な施設整備計画を策定し、本学の目標であるSDGsを達成するため長期にわたり持続可能な循環型の教育研究活動を支える岡山大学インフラ長寿命化（個別施設計画）（平成31年3月策定）（令和5年2月改定）を策定した。

第2章 個別施設計画とは 3P~6P

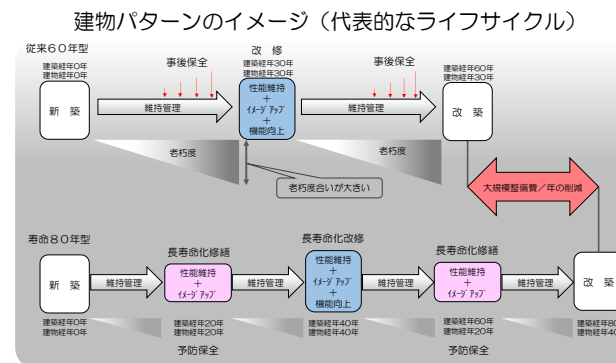
- ◆ 個別施設計画の目的：個別施設計画では、限られた予算の中で最大限・効果的に施設を健全に維持していくための計画を立て、社会の要望に応えることができる、循環型の戦略的な維持管理等を行うことを目的とする。
- ◆ 計画期間：建物及び基幹・環境整備を2022年から2061年の40年間、建物部位を2022年から2041年の20年間とする。
- ◆ 対象施設：附属病院及び職員宿舎を除く全建物（267棟、延べ面積約374,000㎡）及び基幹・環境整備

第3章 対象施設の現状把握と課題 7P~9P

- ◆ 経年30年を超える建物は計画を立てる必要があり、本学においては経年30年を超える建物整備にかかる金額167億円必要である。
- ◆ 経年30年を超える建物の内73%が大規模建物で、17%が小規模建物（学内経費等で整備すべき建物）であるが、建物をさらに分類し、集約化を含めた検討を行いながら、建物の整備パターンを個別に設定することで予算の適正化を図る必要がある。

第4章 個別施設計画策定の基本的な考え方 10P~17P

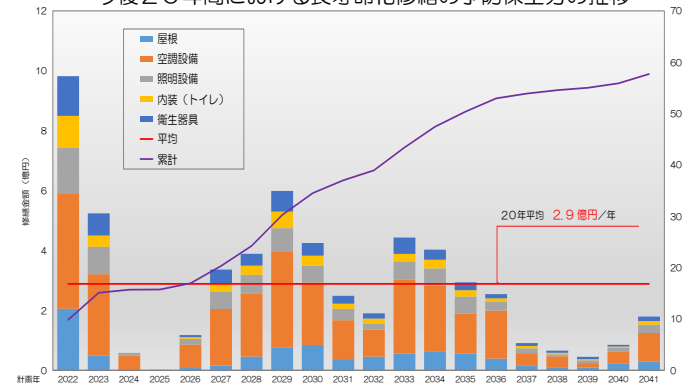
- ◆ 建物パターン（ライフサイクル）：従来の改修（事後保全）から長寿命化（予防保全）への転換を図る必要があり、予防保全を実施することにより建物全体の寿命を伸ばし長寿命化へ転換する。（従来60年型と長寿命80年型のパターンイメージを示す）
- ◆ 建物と修繕の整備パターン：建物の用途構造等により、複合的な整備パターンを10パターンに分類している。
- ◆ 建物パターン分類フロー：建物をフローチャートにより建物パターンを10パターンに分類している。
- ◆ 建物の長寿命化周期及びコスト試算単価：建物及び建物部位別長寿命化周期及びコスト試算単価を設定している。



第5章 個別施設計画 18P~48P

- ◆ 大規模建物整備：大規模建物整備の平準化後の整備計画では40年平均19.0億円/年必要である。
- ◆ 小規模建物整備：小規模建物整備の整備計画では40年平均2.02億円/年必要である。
- ◆ 基幹・環境整備：基幹・環境整備の整備計画では40年平均1.8億円/年必要である。
- ◆ 長寿命化修繕：長寿命化修繕の整備計画額では40年平均2.9億円/年必要である。
 - ①照明更新計画 経年16年から30年未満とし、原則古い順に更新。
 - ②空調更新計画 経年16年から30年未満とし、原則古い順に更新。
 - ③トイレ改修計画 経年20年から30年未満とし、学内評価基準に評価した上で改修。
 - ④エレベーター更新計画 経年18年以上とし、施設整備計画を考慮した上で更新。
 - ⑤防水更新計画 経年20年以上24年未満を長寿命化促進事業25年以上を学内評価基準に評価した上で改修。
- ◆ 個別施設計画：今後100年間における施設整備費合計必要額は100年で平均で25.7億円/年必要である。全体コスト

今後20年間における長寿命化修繕の予防保全分の推移



第6章 今後の取り組み 49P~50P

- ◆ 大規模建物整備及び基幹・環境整備に関して、40年平均で20.8億円/年の予算確保に努めると共に、将来の改築の大きな波が想定される為新たな対策を計画する必要がある。
- ◆ 小規模建物整備に関して、学内予算等で賄わなければならない建物の老朽化が進んでいるため、集約化を含めた検討を行い大学経営基盤の強化を図る必要がある。
- ◆ 作成された個別施設計画データを活用し、エネルギーデータと紐付けすることで、カーボンニュートラルを推進して行く。